

GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10 (ラップ専用)

追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）

作成基準日：2021年12月30日

運用実績

2021年12月30日現在

	当月末	前月末	前月比
基準価額	9,710円	9,523円	+187円
純資産総額	245百万円	241百万円	+4百万円

期間別騰落率

1ヵ月	+1.96%
3ヵ月	+5.84%
6ヵ月	+5.04%
1年	+3.87%
3年	+2.30%
設定来	-2.90%

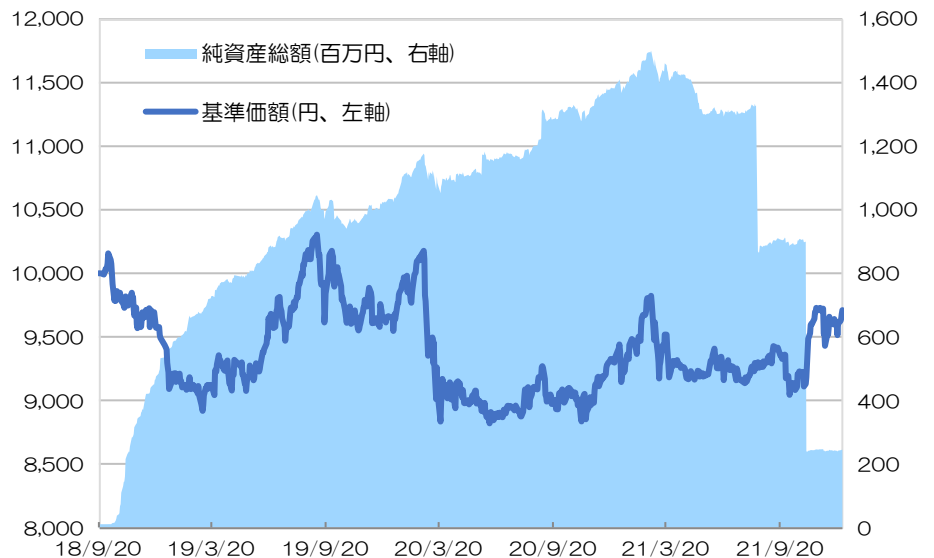
※ファンドの騰落率は分配金（税引前）を再投資したものと計算しています。

分配金の推移（1万口当たり、税引前）

第1期	2019年6月17日	0円
第2期	2020年6月15日	0円
第3期	2021年6月15日	0円
		-
		-
設定来合計		0円

※運用状況によっては分配金額が変わる場合
または分配金が支払われない場合があります。

基準価額・純資産総額の推移



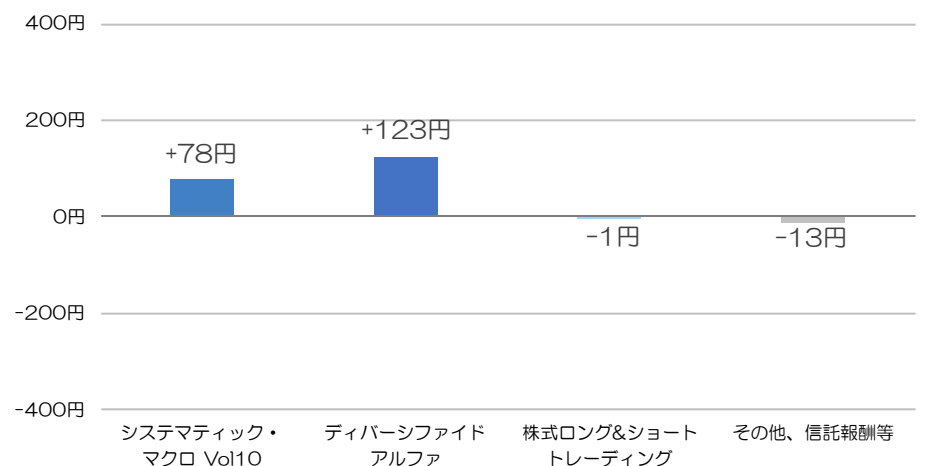
※データは、設定日（2018年9月20日）から作成基準日までを表示しています。
※基準価額は、信託報酬控除後の値です（後述の「ファンドの費用」をご覧ください）。

信託財産の資産構成比率

構成資産	比率
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	96.0%
現金・その他	4.0%
合計	100.0%

※上記構成比率は、ファンドの純資産総額に対する比率であり、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

基準価額の変動要因（月次ベース・概算）



GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの運用状況

2021年12月30日現在

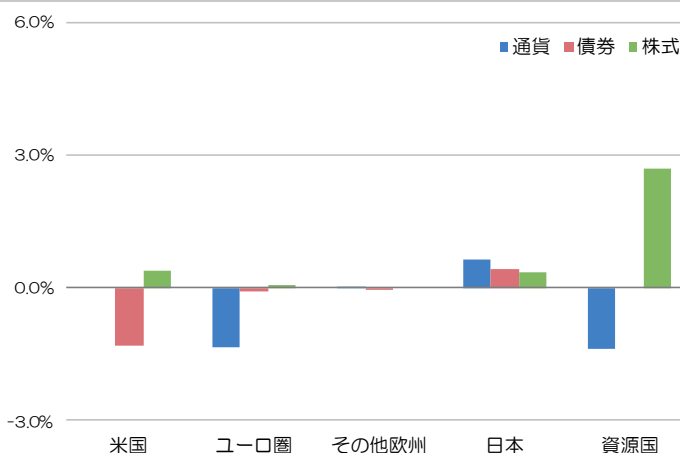
資産別構成比

構成資産	比率
GCIシステムティック・マクロファンド Vol 10 クラスM	43.6%
GCIディバーシファイダルファファンド クラスM	43.4%
GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF（適格機関投資家専用）	9.2%
現金・その他	3.7%
合計	100.0%

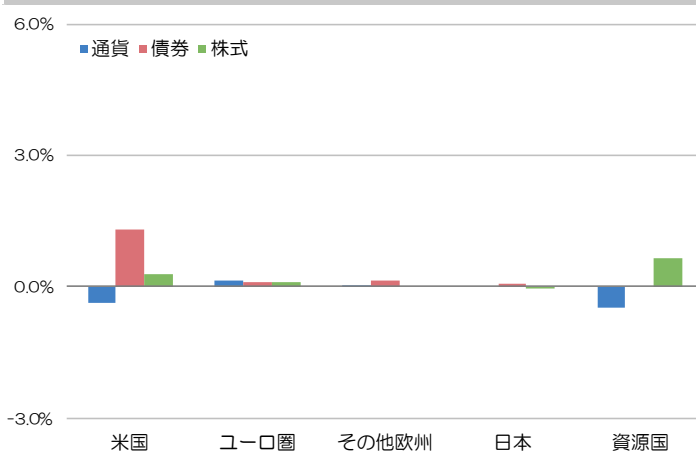
※上記構成比率は、ファンドの純資産総額に対する比率であり、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

GCIシステムティック・マクロファンド Vol 10 クラスMの運用状況

配分比率



各資産の寄与度 (概算)

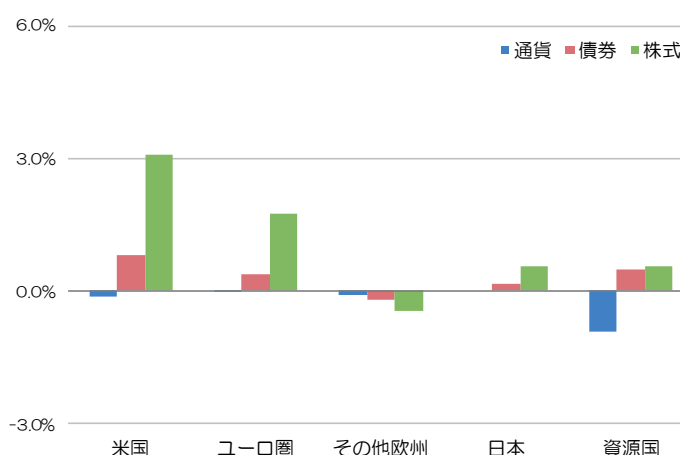


※上記ポートフォリオ断面のグラフは、ポジションを構築するにあたって差し入れる証拠金の対純資産総額比率です。マイナスはショートポジションを意味します。証拠金はリスク見合いで差し入れるものであるため、当該指標はポートフォリオにおけるリスクをより実態に近い形で表すものと考えられています。

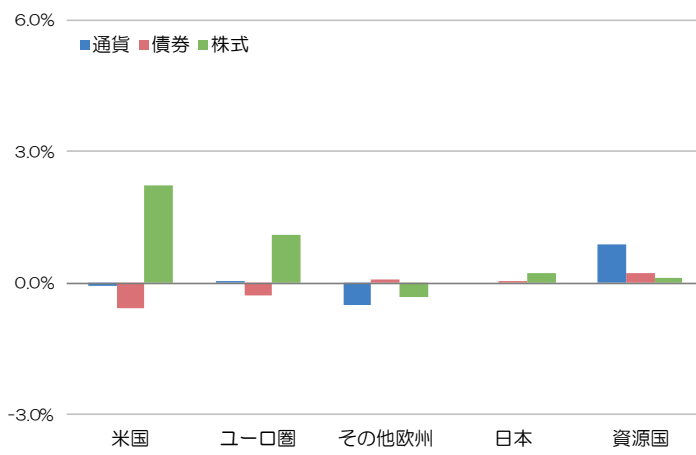
※当組入ファンドのデータは、基準価額算出に反映される時点および期間で集計しています。従いまして配分比率は2021年12月28日時点、寄与度の集計期間は2021年11月26日～2021年12月28日です。

GCIディバーシファイダルファファンド クラスMの運用状況

配分比率



各資産の寄与度 (概算)



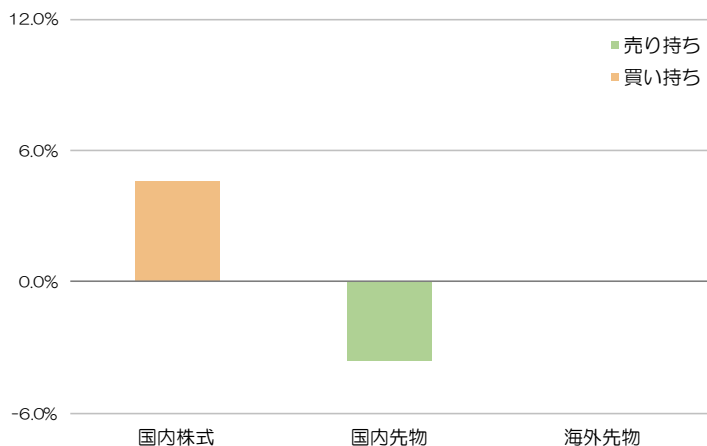
※上記ポートフォリオ断面のグラフは、ポジションを構築するにあたって差し入れる証拠金の対純資産総額比率です。マイナスはショートポジションを意味します。証拠金はリスク見合いで差し入れるものであるため、当該指標はポートフォリオにおけるリスクをより実態に近い形で表すものと考えられています。

※当組入ファンドのデータは、基準価額算出に反映される時点および期間で集計しています。従いまして配分比率は2021年12月28日時点、寄与度の集計期間は2021年11月26日～2021年12月28日です。

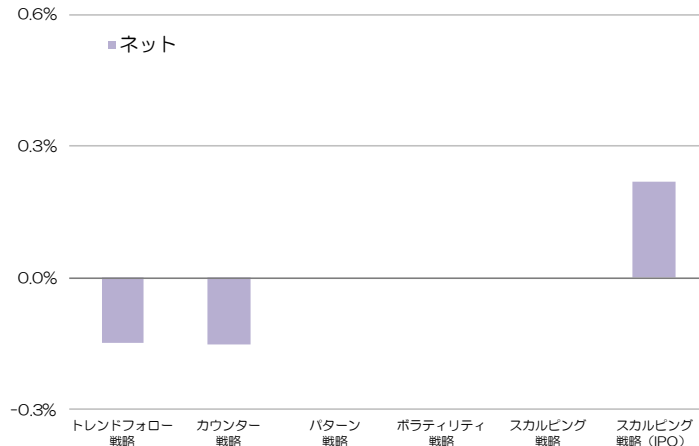
GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスFの運用状況

2021年12月30日現在

配分比率



各資産の寄与度 (概算)



※ 当資料は13ページものです。
 ※ 13ページの「当資料のご利用にあたっての留意事項」を必ずご覧ください。

GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）運用担当者のコメント

〈1〉 今月の投資環境と投資行動

2021年12月のグローバル株式市場は上昇しました。オミクロン株への過度な警戒感が後退したことや、米連邦公開市場委員会（FOMC）では量的緩和縮小（テーパリング）の加速決定と2022年中の3回の利上げ見通しが示されたものの、概ね市場予想の範囲内であったことなどから安心感が広がり、グローバルで株価は上昇しました。グローバル債券市場は下落しました。インフレ懸念が高まるなか、金融正常化が進展するとの見方から金利は上昇（債券価格は下落）しました。GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドは、定性・定量評価や想定リスクを勘案のもと、現在は後述の3ファンドを組入れ、各ファンドの騰落率は、GCIシステムティック・マクロファンドVol10が+1.97%、GCIディバーシファイドアルファファンド クラスMが+3.15%、GCI株式ロング&ショートトレーディングファンドが▲0.10%となりました。今後も引き続き、想定リスク等を勘案したポートフォリオの運営を行ってまいります。

文責：GCIオルタナティブバスケット・ファンド 運用チーム

組入ファンドの運用担当者のコメント

〈1〉 GCIシステムティック・マクロファンド Vol 10 クラスMについて

当月も独自開発の動的ポートフォリオ・モデルに基づき、世界各国の株式市場・債券市場・為替市場へ分散投資を行いました。

主要ポジションは、引き続き北米株式のロング（買い持ち）となりました。堅調に上昇を続けてきている北米株式市場を主要な収益源とする形となりました。主要なヘッジポジションは、資源国通貨ショート（売り持ち）/米ドルロング・ポジションと米国短期債のショート・ポジションとなりました。リスク回避時に資源国の対米ドルでの下落が見込まれたことと中央銀行のタカ派傾倒時のリスクオフの可能性からこれらのポジションが組み込まれました。

当ファンドのパフォーマンスは、主要ポジションである株式ロングから収益を達成したことに加え、米国短期債のショートからも収益を達成したことから、ポートフォリオ全体でプラスの結果となりました。今後のポートフォリオも引き続き主要ポジションは北米株式のロングとなりますが、ボラティリティの上昇を受け、株式エクスポージャーは縮小されます。引き続き米ドル・ロングに対する資源国通貨のショートと米国短期債のショート・ポジションが主要なヘッジポジションとなります。

文責：GCIシステムティック・マクロファンド 運用チーム

※上記のコメントは2021年12月1日～2021年12月30日のものです。

〈2〉 GCIディバーシファイドアルファファンド クラスMについて

当月も、株式ロング（買い持ち）を中心としたポートフォリオ構成でした。ポートフォリオ・リスクは、月を通して当戦略における平均的な水準を上回って推移しました。

月末時点のポートフォリオも株式ロングを中心とした構成で、月央以降は特に株式への傾斜が強まりました。株式のなかでは、特に米国株のウェイトが高水準に維持されました。米国以外では、欧州株ロング・ポジションが縮小した一方、カナダ株ロング・ポジションは拡大しました。債券では、全般にポジション縮小傾向でしたが、月末のリバランスで豪州債ロング・ポジションが拡大しました。通貨では、豪ドル・ロングとニュージーランドドル・ショート（売り持ち）は変わらずですが、ボンドは月内にロングからショートに転じました。

当戦略のリターンは、概ね株価の動向に左右される展開でした。月上旬は堅調な株価に支えられてリターンを積み上げましたが、中旬の調整局面ではファンドの利益もほぼ消失しました。その後再び株価が上昇し、高値圏で月末を迎えました。

文責：GCIディバーシファイドアルファファンド 運用チーム

※上記のコメントは2021年12月1日～2021年12月30日のものです。

〈3〉 GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスFについて

12月のマザーファンドの戦略別寄与度は、スカルピング戦略がプラスに寄与したものの、トレンドフォロー戦略およびカウンター戦略が共にマイナス寄与となり、全体でもマイナス寄与となりました。当月は前月後半の流れが継続し時間帯によって方向が変わる（例えば前場でも寄り付き後1時間とその後とで方向が変わる）ような不安定な展開で、トレンドが発生しにくい状況となり、株式部分のパフォーマンスは苦戦を強いられました。

今後の株式市場につきましては、ボラティリティについては引き続きトレードに適した水準を維持すると見ています。また、モメンタムについては、大型株は長期モメンタムが上向き一方で短期モメンタムが調整しています。中小型株については調整局面にあります。全体として上昇余地はありつつも、跛行色が強まる局面になると推測されます。当ファンドにつきましては、引き続き短期トレーディング戦略の特徴を最大限に生かし、効果的な銘柄スクリーニング、相場局面に応じたリアルタイムの投資配分の変動、また統計的、数学的アプローチによる投資機会を獲得していくように努めます。一方、リスクマネジメントにおいては、厳格な管理によるきめ細かなリスク管理を引き続き行います。特に、ファンド・パフォーマンスの一尺度であるシャープレシオを重視した運用を行います。

文責：GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド 運用チーム

※ 当資料は13ページものです。

※ 13ページの「当資料のご利用にあたっての留意事項」を必ずご覧ください。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して積極的な運用を行います。

ファンドの特色

- 1 「GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます)」を通じて、GCIアセット・マネジメントのオルタナティブ戦略(指定投資信託証券)に投資することにより、絶対収益の追求を目指します。

オルタナティブ戦略とは

オルタナティブは英語で「代替」という意味です。株式や債券などの伝統的投資に対して、それ以外の新しい投資スタイルを総称することからオルタナティブ投資と呼ばれています。具体的には、ヘッジファンドやプライベートエクイティ、実物資産、REITなどが挙げられます。

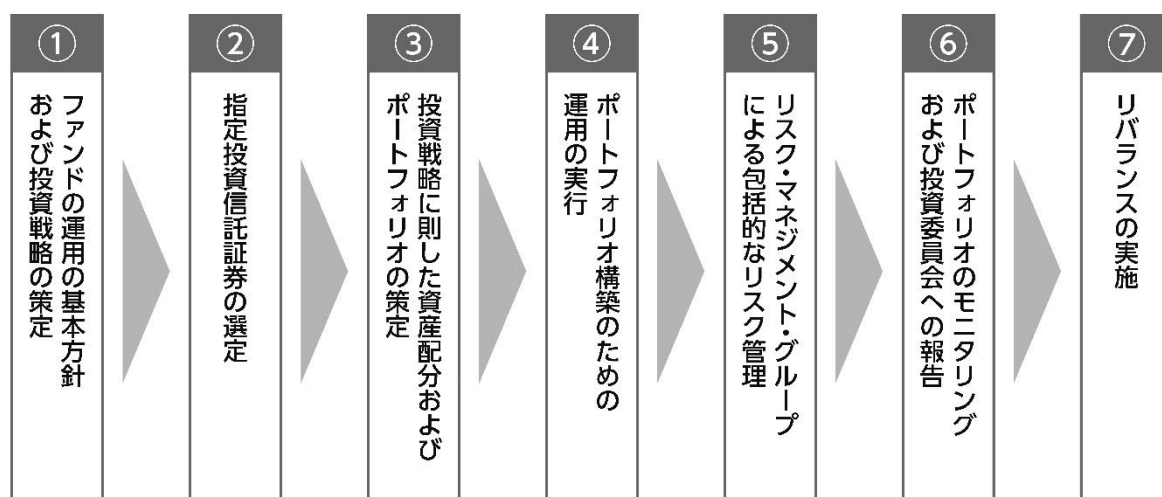
絶対収益追求とは

特定の市場の動向に左右されにくい収益の追求を目指すことをいいます。必ず、収益を得られることを意味するものではありません。

- 2 投資信託証券への投資にあたっては、別に定める投資信託証券の中から、定性評価、定量評価、その他流動性等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行うことを基本とします。

※別に定める投資信託証券の詳細につきましては、後掲の「追加的記載事項」をご覧ください。

<運用プロセス>



※上記プロセスは2021年6月末現在のものであり、今後、変更する場合があります。

ファンドの特色（続き）・仕組み

3 実質的な外貨建資産については、市場環境の変化等を勘案し、必要に応じて為替ヘッジを行うことができます。

4 原則、毎年6月15日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、以下の配分方針に基づき、分配を行います。

- ・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)などの全額とします。
- ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配を行わないこともあります。
- ・収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、特に制限を設けず、運用の基本方針に則した運用を行います。

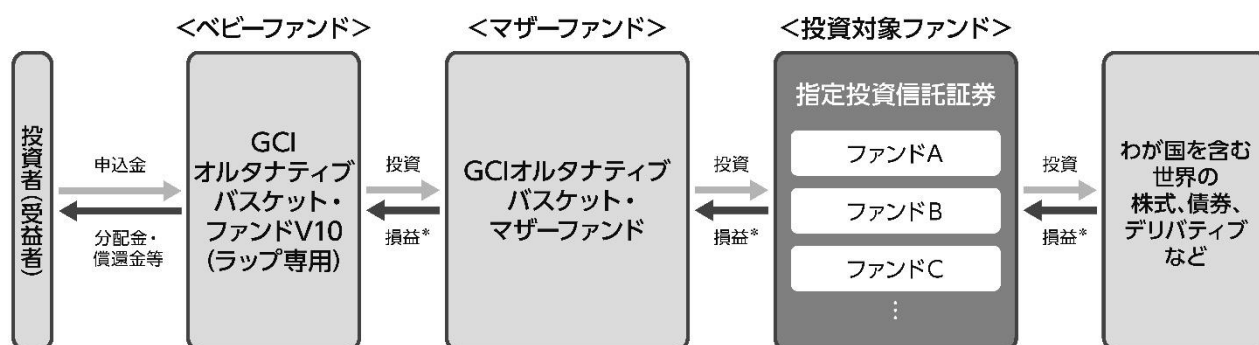


決算

※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

ファンドの仕組み

- 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。
「ファミリーファンド方式」とは、投資者の皆さまからお預かりした資金をまとめてベビーファンドとし、その資金をマザーファンドの受益証券に投資をして、実質的な運用をマザーファンドにて行う仕組みです。
- マザーファンドは、ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。
「ファンド・オブ・ファンズ方式」とは、他の投資信託に投資することにより運用を行う方式です。マザーファンドでは、指定投資信託証券として後掲の各投資信託を主要投資対象とします。



* 損益はすべて投資者である受益者に帰属します。

<主な投資制限>

- ① マザーファンドの受益証券への投資割合には、制限を設けません。
- ② 同一銘柄の投資信託証券への実質投資割合には、制限を設けません。
- ③ 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
- ④ デリバティブ取引の直接利用は行いません。

資金動向や市況動向などによっては、上記のような運用ができない場合があります。

追加的記載事項

投資対象ファンド(投資信託証券)の概要は以下のとおりです。(2021年6月末現在)

※GCIディバーシファイドアルファファンド クラスMは2021年9月16日現在です。

※必ずしもすべての資産クラスおよび投資対象ファンドに投資するとは限りません。

※将来の市況の変化などによっては、新たな投資対象ファンドが追加となる場合があります。

資産クラス	オルタナティブ
投資対象ファンドの名称	GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM
ファンド形態	外国籍投資信託(円建て)
主な投資対象	世界各国の株価指数先物・債券先物・金利先物・通貨先物、為替
運用の基本方針等	独自に開発した動的ポートフォリオモデルに基づき、世界の金融市場への分散投資を通じて市場に現れる中長期のトレンドを収益の源泉として絶対収益の獲得を目指します。
ベンチマーク	ありません。
運用報酬等	ありません。
委託会社(運用会社)の名称	GCI Asset Management, HK Limited

資産クラス	オルタナティブ
投資対象ファンドの名称	GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF (適格機関投資家専用)
ファンド形態	追加型証券投資信託
主な投資対象	GCI株式ロング&ショートトレーディングマザーファンドの受益証券
運用の基本方針等	主として、マザーファンドの受益証券への投資を通じて、独自に開発した短期アルゴリズム取引を組み合わせた短期トレーディングによるロング・ショート運用を行い、中長期的な信託財産の成長と安定した収益の確保を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。
ベンチマーク	ありません。
信託報酬等	年率0.0385% (税抜0.035%)
委託会社(運用会社)の名称	株式会社GCIアセット・マネジメント

資産クラス	オルタナティブ
投資対象ファンドの名称	GCIディバーシファイドアルファファンド クラスM
ファンド形態	外国籍投資信託(円建て)
主な投資対象	世界各国の株価指数先物・債券先物・金利先物・通貨先物、為替等
運用の基本方針等	機械学習等の金融技術を駆使し、モデルベースのシステムティックな複数のアプローチを組み合わせた戦略で、流動性の高い上場先物等への投資を通じて、投資対象や地域のみならず、複数のモデルの運用に分散投資を行うことにより、絶対収益の獲得を目指します。
ベンチマーク	ありません。
運用報酬等	ありません。
委託会社(運用会社)の名称	株式会社GCIアセット・マネジメント

資産クラス	国内債券
投資対象ファンドの名称	GCI マネープールファンド(適格機関投資家専用)
ファンド形態	追加型証券投資信託
主な投資対象	GCIマネープールマザーファンドの受益証券
運用の基本方針等	主として、マザーファンドの受益証券への投資を通じて、わが国の短期公社債等を投資対象とし、安定した収益の確保を目指して運用を行います。なお、コール・ローン等で運用する場合があります。
ベンチマーク	ありません。
信託報酬等	年率0.0231% (税抜0.021%)
委託会社(運用会社)の名称	株式会社GCIアセット・マネジメント

追加的記載事項（続き）

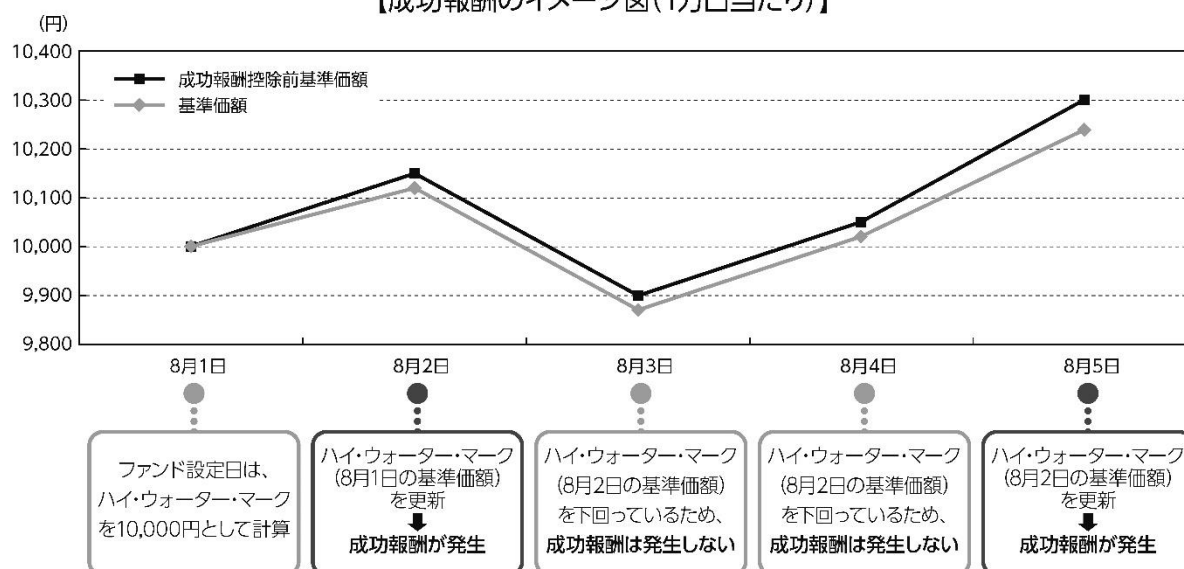
【補足】成功報酬に関するご説明

当ファンドでは、成功報酬をご負担いただきます。成功報酬計算方法のポイントは、以下のとおりです。

- 成功報酬は、ハイ・ウォーター・マーク方式で発生します。
- 成功報酬は、日々計算し、日々確定します。なお、算出式は以下のとおりです。
 - (1) 当日の基準価額から基本報酬額を控除します。（基本報酬控除後の基準価額を、ここでは「参照基準価額」といいます。）
 - (2) ハイ・ウォーター・マーク※よりもその参照基準価額の方が上回った場合、その上回った分に対し、22%（税抜20%）相当を成功報酬として控除されます。

※ハイ・ウォーター・マーク（「HWM」と表す場合があります）とは、当ファンドの「基準価額の過去最高値」を表します。
- このため、当日の成功報酬を算出する際のハイ・ウォーター・マークは、前日までの基準価額の最高値となります。
- 成功報酬は日々確定するため、計算期間内に基準価額が下落した場合でも、確定した成功報酬をファンドに払い戻すことはありません。

【成功報酬のイメージ図(1万口当たり)】



なお、当ファンドでは、基準価額の変動および資金の流出入によって、当ファンドの投資家間の負担の程度が異なるケースがあります。例えば、上記イメージ図において、8月1日に投資を開始した投資家Aは、8月2日の上昇時に成功報酬がかかるため、8月4日時点までの累積で成功報酬を差し引かれていることとなります。

一方、8月3日に投資を開始した投資家Bは、8月4日の上昇時には成功報酬はかからず、8月4日時点までの累計で成功報酬を差し引かれていません。加えて、8月5日に関しては、投資家A・投資家BともにHWM（8月2日時点の基準価額）に対する超過分に対して成功報酬が計算されます。結果として、累積で見ると投資家Aについては8月1日以降の上昇分全てに対して成功報酬がかかる一方、投資家Bについては投資開始時点のHWM（8月2日時点の基準価額）を超過した分のみ成功報酬がかかることとなります。

上記は、当ファンドにおける成功報酬の仕組みを投資家の皆様にご理解いただくために作成したイメージ図であり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。したがって、**投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。**

当ファンドが有する主なリスク要因は以下の通りです。

株価変動リスク	株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢などにより変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
金利変動リスク	債券などの価格は、一般的に金利低下(上昇)した場合は値上がり(値下がり)します。なお、債券などが変動金利である場合、こうした金利変動による価格の変動は固定金利の場合と比べて小さくなる傾向があります。また、発行者・債務者などの財務状況の変化などおよびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢などにより変動します。債券などの価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
為替変動リスク	為替相場は、各国の経済状況、政治情勢などの様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。なお、当ファンドおよび投資対象ファンド(投資信託証券)において、外貨建資産について、為替予約を活用し、為替変動リスクの低減を図る場合がありますが、完全にヘッジすることはできませんので、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、為替ヘッジを行う通貨の短期金利と円短期金利を比較して、円短期金利の方が低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分のコストがかかることにご留意ください。
信用リスク	有価証券等の発行体などが財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金などをあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、またはそれが予想される場合には、有価証券等の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。
カントリーリスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化などにより市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、方針に沿った運用が困難となり、基準価額が下落することがあります。
流動性リスク	時価総額が小さい、取引量が少ないなど流動性が低い市場、あるいは取引規制などの理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。
ヘッジファンドの運用手法に係るリスク	投資対象ファンド(投資信託証券)においては、直接もしくは実質的に現物有価証券、デリバティブや為替予約取引などの買建てや売建てによりポートフォリオを組成することがあり、買い建てている対象が下落した場合もしくは売り建てている対象が上昇した場合に損失が発生し、当ファンドの基準価額が影響を受け、投資元本を割り込むことがあります。また、投資対象ファンド(投資信託証券)の純資産総額を上回る買建て、売建てを行う場合があるため、投資対象ファンド(投資信託証券)の基準価額は現物有価証券に投資する場合と比べ大きく変動することがあり、投資元本を割り込むことがあります。また、ヘッジファンドのパフォーマンスは、通常、運用者の運用能力に大きく依存することになるため、市場の動向に関わらず、損失が発生する可能性があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

投資リスク（続き）

その他の留意点

- ファミリーファンド方式に関する留意事項
当ファンドは、「ファミリーファンド方式」により運用を行うため、マザーファンドにおいて他のベビーファンドによる追加設定、一部解約等に伴う有価証券の売買等が行われた場合、当ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。
- 収益分配金に関する留意事項
分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は、前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり幅が小さかった場合も同様です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

リスクの管理体制

運用リスクの管理については、運用部門から独立したリスク・マネジメント・グループが日々運用状況の分析およびモニタリングを行い、原則として週次で開催される運用リスク管理会議にて運用リスクの適切性を検証・評価し、リスク管理会議および運用政策会議に報告されます。また、問題が生じた場合には速やかに臨時で招集される運用政策会議に報告が行われ、その対応策が検討・決定される体制となっています。

事務リスク等の管理については、原則として月次で開催される事務リスク等管理会議において、運用に係る事務運営の適切性が検証され、リスク管理会議に報告される体制となっています。

そして、リスク管理会議において、各リスクの発生の有無・状況の把握、対応方針の検討・決定および進捗状況の管理などを行い、重要な事項はさらに運用政策会議に報告される体制となっています。

お申込みメモ

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額とします。 (ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています。)
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して8営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受け付けた分を当日のお申込み分とします。
購入の申込期間	2021年9月16日から2022年3月15日まで ※申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。
購入・換金の申込受付不可日	シンガポールの銀行休業日の前営業日 ※詳しい申込受付不可日については、販売会社または委託会社にお問い合わせください。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口解約には別途制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受け付けた購入・換金のお申込みを取り消すことがあります。
信託期間	無期限(設定日:2018年9月20日)
繰上償還	次のいずれの場合などには、繰上償還することがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ファンドの受益権の口数が10億口を下回るようになったとき ・繰上償還することが受益者のために有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
決算日	毎年6月15日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回決算を行い、収益配分方針に基づいて分配を行います。 収益分配金の受取方法により、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」の2つの申込方法があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託金の限度額	500億円
公 告	原則として、電子公告の方法により行い、委託会社のホームページに掲載します。 URL : https://www.gci.jp
運用報告書	毎決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度(NISA) および未成年者少額投資非課税制度(ジュニアNISA)の適用対象です。 配当控除・益金不算入制度の適用はありません。
そ の 他	購入申込みにあたっては、販売会社によってラップ口座の開設が必要な場合があります。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

ファンドの費用・税金

投資者が直接的に負担する費用													
購入時手数料	ありません。												
信託財産留保額	ありません。※												
投資者が信託財産で間接的に負担する費用													
運用管理費用 (信託報酬)	<p>運用管理費用(信託報酬)の総額は、(1)基本報酬に(2)成功報酬を加算して得た額とします。 運用管理費用(信託報酬)は毎日計上され、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。</p> <p>(1)基本報酬 日々のファンドの純資産総額に基本報酬率を乗じて得た額とします。 ●当ファンドの基本報酬率:純資産総額に対し年率1.364%(税抜 1.24%)</p> <p><基本報酬率の配分></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>支払先</th> <th>配分</th> <th>役務の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委託会社</td> <td>年率1.32% (税抜 1.20%)</td> <td>委託した資金の運用、基準価額の算出、開示資料の作成などの対価</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>年率0.011% (税抜 0.01%)</td> <td>購入後の情報提供、運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、各種事務手続きなどの対価</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>年率0.033% (税抜 0.03%)</td> <td>信託財産の管理、委託会社からの指図の実行などの対価</td> </tr> </tbody> </table> <p>●投資対象ファンド(投資信託証券)における運用報酬等: 年率0.00385%程度(税抜 0.0035%程度)^(注)</p> <p>●実質的な負担:年率1.36785%程度(税抜 1.2435%程度)^(注)</p> <p>(注)上記の値はあくまで目安であり、指定投資信託証券の実際の組入れ状況等により変動する場合があります。</p> <p>(2)成功報酬 委託会社は、基本報酬に加えて、ハイ・ウォーター・マーク方式を用いた成功報酬を受領します。 基本報酬控除後の基準価額が、その時点におけるハイ・ウォーター・マーク(基準価額の過去最高値)を上回った場合、その上回った部分に対し22%(税抜 20%)相当の成功報酬がかかります。</p>	支払先	配分	役務の内容	委託会社	年率1.32% (税抜 1.20%)	委託した資金の運用、基準価額の算出、開示資料の作成などの対価	販売会社	年率0.011% (税抜 0.01%)	購入後の情報提供、運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、各種事務手続きなどの対価	受託会社	年率0.033% (税抜 0.03%)	信託財産の管理、委託会社からの指図の実行などの対価
	支払先	配分	役務の内容										
	委託会社	年率1.32% (税抜 1.20%)	委託した資金の運用、基準価額の算出、開示資料の作成などの対価										
	販売会社	年率0.011% (税抜 0.01%)	購入後の情報提供、運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、各種事務手続きなどの対価										
受託会社	年率0.033% (税抜 0.03%)	信託財産の管理、委託会社からの指図の実行などの対価											
その他の費用・手数料	<p>以下の費用・手数料がファンドから支払われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 監査法人に支払われるファンドの監査費用 有価証券等の売買時に発生する売買委託手数料 外貨建資産の保管等に要する費用 ファンドに関する租税 その他信託事務の処理にかかる諸費用 等 <p>※上記の費用・手数料は、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することができません。</p>												

※2021年12月27日に信託財産留保額を廃止とする投資信託約款の変更を行いました。

※投資者の皆さまにご負担いただく手数料等の合計額については、当ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社・その他の関係法人の概要

委託会社	株式会社GCIアセット・マネジメント [ファンドの運用の指図を行う者] 金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第436号 加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会 電話番号：03（6665）6952（営業日の9:00~17:00） ホームページ：https://www.gci.jp
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社 [ファンドの財産の保管及び管理を行う者]

販売会社

金融商品取引業者等の名称		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会	日本商品先物 取引協会
楽天証券株式会社	金融商品 取引業者	関東財務局長 (金商) 第195号	○	○	○	○	○

- ・お申込み、投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は、販売会社へお申し出ください。
- ・販売会社は今後変更となる場合があります。

<当資料のご利用にあたっての留意事項>

- 当資料は、株式会社GCIアセット・マネジメント（以下「当社」といいます）が、当ファンドの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、必ず最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料記載のデータや見通し等は、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、正確性、適時性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は、作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、参考として記載されたものであり、その銘柄または企業の株式等の売買を推奨するものではありません。
- 各指数に関する著作権等の知的財産、その他一切の権利は、各々の開発元または公表元に帰属します。
- 当資料に関する一切の権利は、引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部または全部の無断での使用・複製はできません。
- 投資信託は預金保険制度の対象ではありません。また、銀行が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。